

人口減少社会強靱化分科会 課題の整理

■地域のあり方

- 中山間地域等の少子高齢化により人口が急速に減少している地域においては、自治会の統合等の地域のあり方、抜本的対策を住民、市町村が主体となって検討する必要がある、地域単位（旧村、小学校区）の人口推計の活用が重要である。
- 特に、地域や集落によって、歴史的背景、地理的条件、生活環境、人口構成、住民間の関係性等が異なることから、課題や解決策は各々の地域や集落ごとに分析する必要がある。
- 高齢化により地域のマンパワーや活力が縮小しているため、地域のあり方の検討や、生活機能の維持について、専門組織を設立したり、市町村や県の関わり方をこれまで以上に深めていかないと課題解決が難しい。
- 一足早く超高齢化が進んでいる中山間地域では、住民主体による共助、独居高齢者の生活サポートや地域活動が益々困難となり、これまで通りの対策では課題解決が困難な地域が発生している。
- 水産業等では外国人に頼る状況でもあることから、外国人材の受け入れが地域の持続可能性を考える上での要点であり、どのように受け入れていくのが良いのか、受け入れ体制等も含めて検討が必要。

■買物環境

- 中山間地域では近くの食料品店が減少し、買物は市町村（又は旧市町村）の中心エリア等に集中しているが、市町村等が運営するデマンドバスや乗合タクシー、移動販売車等により買物環境の改善が図られている。

○一方、デマンドバスや乗合タクシーなどに乗ることもできない高齢者が増えており、訪問介護や別居家族の助けがないと買い物ができない。

○倉吉市関金町では、既存スーパーマーケット閉店後、住民らが中心となって立ち上げたスーパーマーケットが赤字経営により1年で閉店する事例が発生している。

■交通の確保

○中山間地域では、公共交通機関の便数が限られるため、中高生等が部活や習いごとなどの課外活動をあきらめることがある。公共交通機関を利用できる地域の方が、デマンドバスや乗合タクシーを利用できる地域より不便になっている。

○乗合タクシーの運転手が60代以上になっており、次の担い手を確保できなければ運営を持続できない可能性がある。

■集落の維持

○集落機能が維持できないほど住民が少なくなっている集落があることから、「村じまい」への対応、近隣集落との合併・連携などの調整が必要となる。残された不動産に起因して様々な問題が生じてくることが懸念され、いわゆる「後始末」に行政が関与することも検討が必要。

○住民が少なくなった集落では、集落管理の水道や公民館等のインフラに関する修繕、農地利用などについて、新たに大きな負担が発生した場合、残された住民がそのまま住み続けることは難しい。

○集落内に空き家が多くなり、解体できず放置される空き家については倒壊する危険があり、また、窃盗なども発生していることから、住民の安全や治安に対する不安感が増している。

○独居の高齢者は、集落内であっても外出せず、また高齢化している地域では地域活動そのものが縮小して、住民の楽しみや喜びを感じる機会が減少しており、高齢者の孤立孤独化が一層進んでいる。

○集落住民のほとんどが高齢者で、集落運営の要となる区長など、役員のなり手不足が深刻化している。

○島根県では、「小さな拠点づくり」に全県的に取り組まれており、各地域で、これからの集落や地域の維持に向けて真剣に検討されているが、本県でも更なる取組が必要ではないか。

■生活環境の維持

○集落へのアクセス道については、獣害被害による道路機能の支障や、市町村の除雪作業が行き届かない状況、道路沿いの倒木による通行止めの恐れなどの問題が生じている。

○簡易水道の給水集落では、水道施設の老朽化による破損や住民による維持管理活動がいつまででるかといった不安がある。

○中山間地域では、山影等が影響し、集落内、家屋内での携帯電話不感地域があり、デジタル化が進展せず、データの通信環境も改善せず、特に若い世代に不評である。自動運転やドローンによる物資輸送も試みられていることもあり、通信環境の改善が必須。

■農林業の継続

○中山間地域では、農作物に対するイノシシやシカなどの鳥獣被害が多いことから、生産意欲の減退が著しい。

○中山間地域では、農業者が急激に減少していることから、集落農地の半数が耕作放棄地化したり、農業用水路等の維持管理が不十分な状況も生じている。

【今後、調査し、課題整理が必要な項目】

- 中山間地域における医療、介護関連施設の経営者、従業員の人手不足（高年齢化、新規採用困難）、廃業による支障
- 中心市街地の空洞化・高齢化に特化した課題